



北ミサイル失敗

日本海に向け3発

米太平洋軍 米韓演習に對抗か



北朝鮮による飛翔体発射の情報を受け、官邸に入る菅義偉官房長官
—26日午前、首相官邸(桐原正道撮影)

【ソウル＝名村隆寛】韓国軍合同参謀本部によると、26日午前6時50分(日本時間同)ごろ、北朝鮮は南東部の江原道旗対嶺(カンウォンドキョウテリョウ)付近から北東方向の日本海に向けて飛翔体を数発発射した。飛翔体は250キロあまり飛行したという。米太平洋軍は北朝鮮の弾道ミサイルとの見方を示し、発射されたのは3発だったと発表した。1発目と3発目は失敗し、2発目は発射直後に爆発したとみられている。

米韓は21日から31日までの予定で合同軍事演習「乙支フリーダムガーディアン」を実施中。北朝鮮は合同演習に強く反発しており、これに對抗した発射の可能性がある。

北朝鮮は米領グアム周辺にミサイルを発射する計画を検討していたが、米国などの動向を見て当面は見送る方針を示唆していた。

北朝鮮は7月28日に北部慈江道の舞坪里(チヤンガドムヒマツリ)から大陸間弾道ミサイル(ICBM)「火星14」を発射し、「発射実験に成功した」と発表している。弾道ミサイルであれば、それ以来で、今年になって12回目の発射になる。

日本政府関係者は26日、「北朝鮮がロケット砲数発を撃ったようだ。ミサイルではない」と取材に対し述べた。別の関係者は「日本の安全に直接影響はない」としている。

